

■ 設計コンセプト

1.地域の防災拠点となる「安全で安心な庁舎」

庁舎には住民生活に関わる多くの人、機能、大切な情報が存在します。震災等のあらゆる災害に対し、有事の時に対応出来る、防災・災害復興拠点として、基礎免震構造を採用し、長時間にわたって確実に機能を発揮する庁舎とします。

2.経済性と機能性を高めた「長寿命でコンパクトな庁舎」

将来的な行政需要の変動に対して、柔軟に対応することが可能な合理的な平面計画と、高効率でコンパクトな設備システムの導入により、経済性と機能性を高め、永く住民に利用される長寿命な庁舎とします。

3.自然との共生を図る「環境にやさしい庁舎」

自然エネルギーの活用、先進的な環境技術の導入やエコマテリアルの採用により、トータルライフサイクルコスト(LCC)を縮減し、緑豊かな三好町の風土・気候と調和する先進的なエコ庁舎をめざします。

4.多様な住民に活用され、親しまれる「人にやさしい開かれた庁舎」

住民利用の多い部門を低層階に設け、分かりやすく使いやすい庁舎とし、高齢化社会を見据え、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方に基づく庁舎とします。

また、住民自治や充実した住民サービスのための開かれた庁舎をめざします。

5.周辺とのつながりを活かし「まち全体の活性化を図る庁舎」

将来、庁舎西側の駐車場用地に建設予定の複合施設との連携に配慮した配置・動線計画とすることにより、あたらしい人の流れを導く「結節点」を創出し、人と人との交流を育む住民主体の「まちづくり」の拠点となる庁舎とします。

6.「三好」らしさが感じられる風景を創出し「景観形成の先導的役割を担う庁舎」

三好町の緑豊かな自然景観との調和をめざして、建物や敷地内を積極的に緑化し、緑豊かなランドスケープを創出します。

■ 建物概要



○外観パース

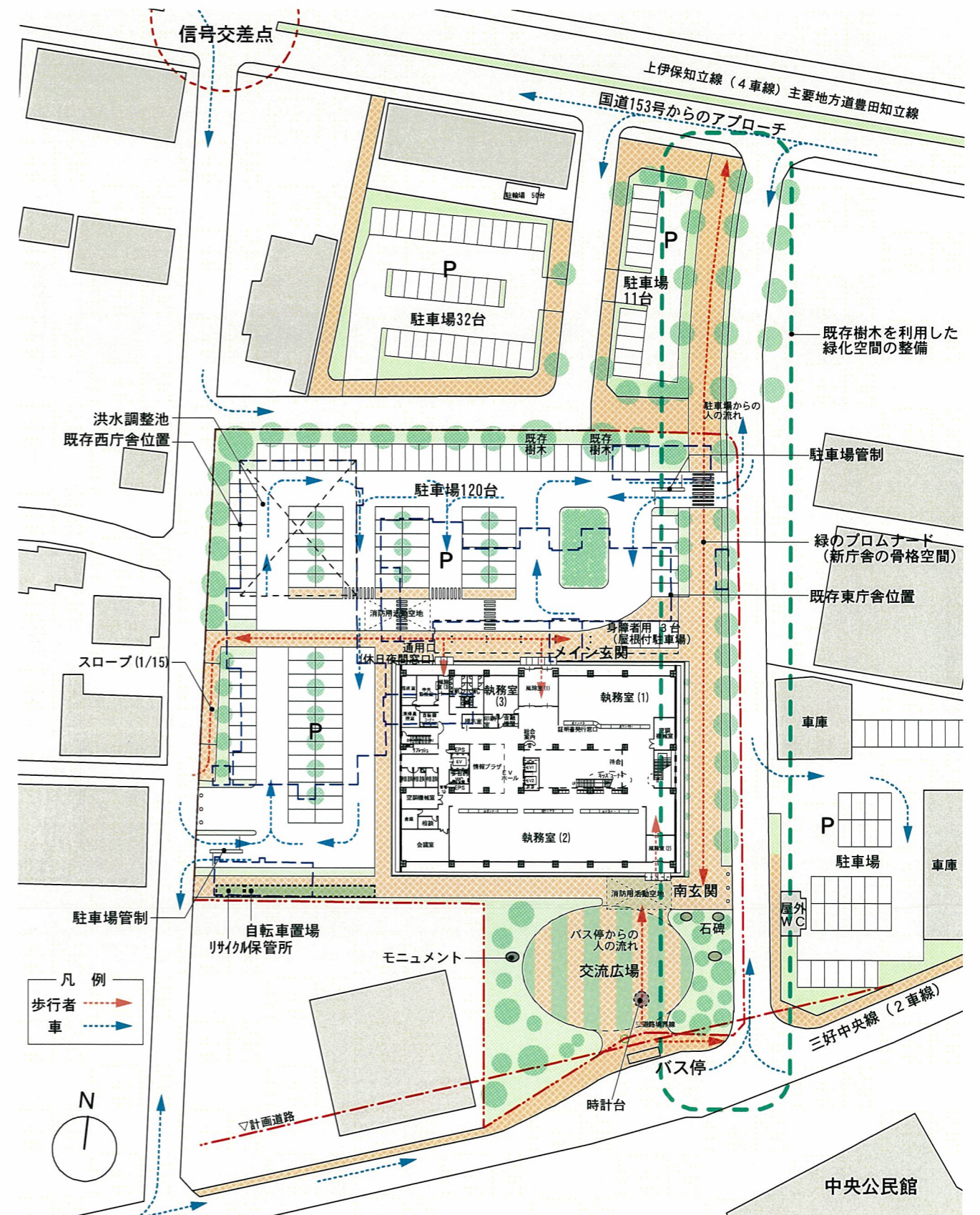
7階	179㎡
6階	1,668㎡
5階	1,635㎡
4階	1,635㎡
3階	1,635㎡
2階	1,593㎡
1階	1,761㎡
合計	10,106㎡

○各階面積

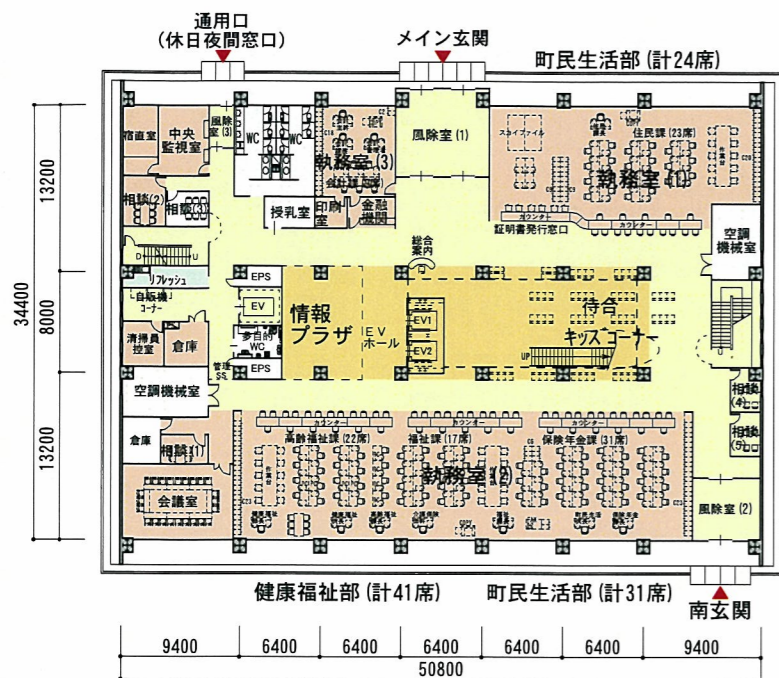
○敷地位置	愛知県西加茂郡三好町大字三好字小坂50
○用途地域	近隣商業地域
○法定建ぺい率	80%
○法定容積率	200%
○防火地域等	準防火地域
○その他の規制	計画道路

○建物用途	庁舎
○敷地面積	10,042㎡
○工事種別	新築
○構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、免震構造
○耐火建築物	耐火建築物
○階数	地上7階
○建物高さ	30.60m
○建築面積	2,249㎡
○建ぺい率	22.40%
○延床面積	10,106㎡
○容積率	100.63%
○日影規制時間	3時間、5時間、平均地盤からの高さ4m

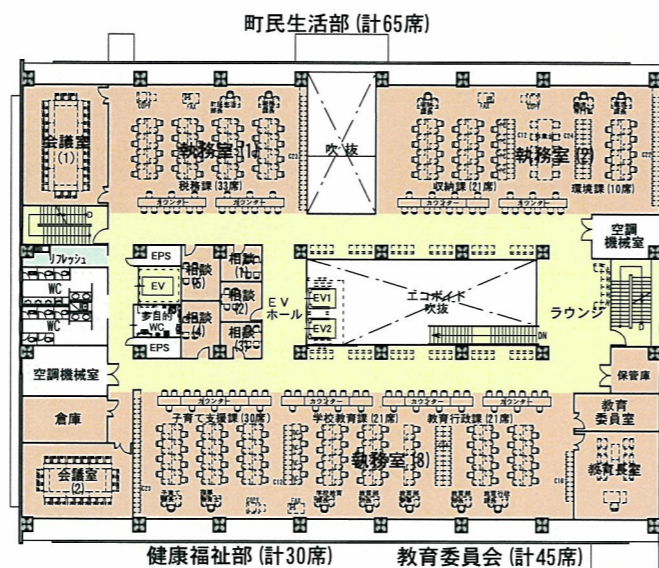
■ 配置計画



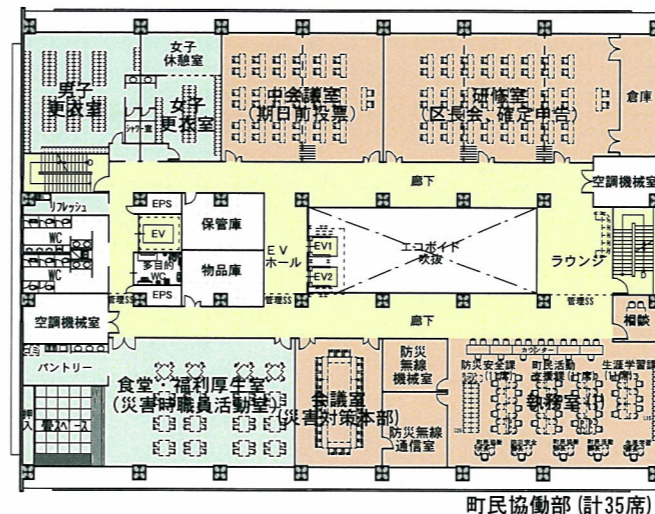
■ 平面計画



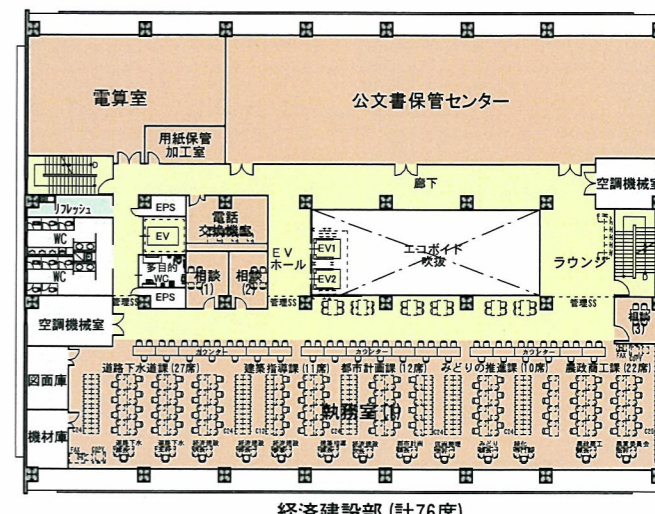
1階 町民生活部・健康福祉部
情報プラザ・待合



2階 町民生活部・健康福祉部
教育委員会



3階 災害対策本部・町民協働部・研修室



4階 経済建設部・公文書保管センター

各階ゾーニング計画

- 待合スペースは1・2階が一体となった明るく見通しがよい吹抜空間とします。1階には住民記録・戸籍など利用者の多い窓口や、福祉部門など利用者の移動負担の大きい窓口を中心に配置します。
- エントランス近傍には、総合案内を兼ねた情報プラザを設置し、さまざまな情報発信と住民の活動と交流を支援します。
- 授乳室やキッズコーナーを設置し、子供連れの来庁者の利便性に配慮した計画とします。
- 適切な奥行き(約13m)を持つ整形なワンルーム型の執務室を確保することで、執務レイアウトの自由度を高め、将来的な組織変更にも柔軟に対応できる計画とします。

動線計画

- 来庁者動線と職員動線を明確に分けて、セキュリティや管理面で「利用しやすい・働きやすい」動線計画とします。
- 議会関連諸室を6階にまとめ、効率のよい運用ができるようにします。議場傍聴席は7階に設置し、傍聴者と議員の動線を明確に分離します。
- 階段を東西両端に配置することで、わかりやすく安全な2方向避難経路を確保します。

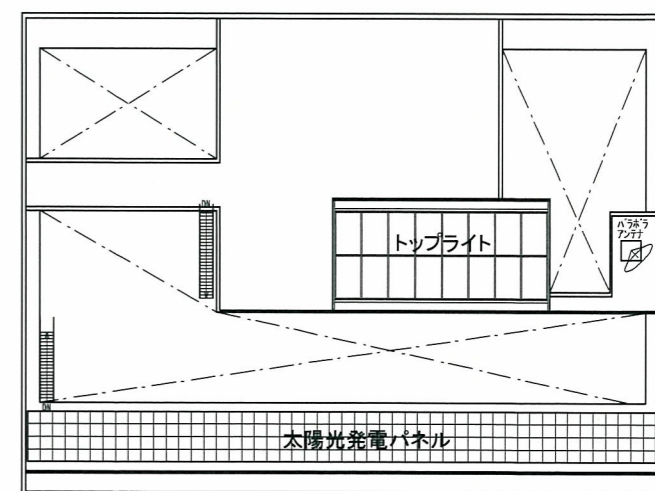
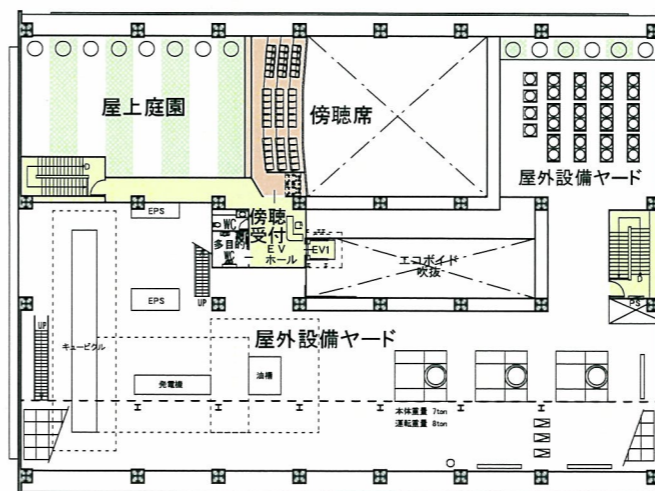
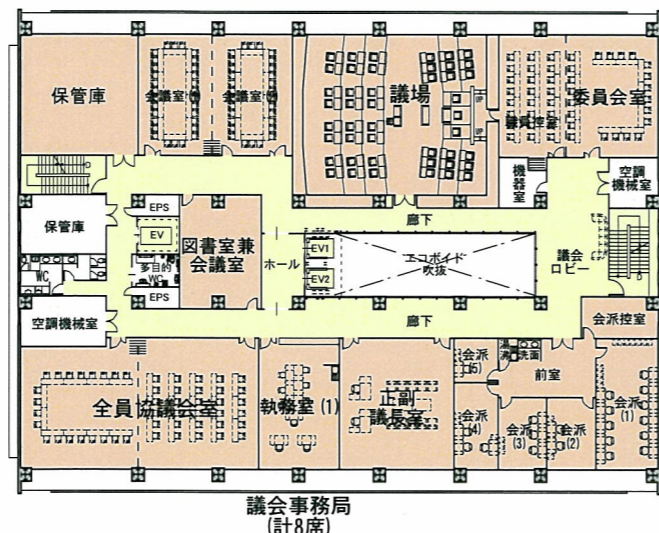
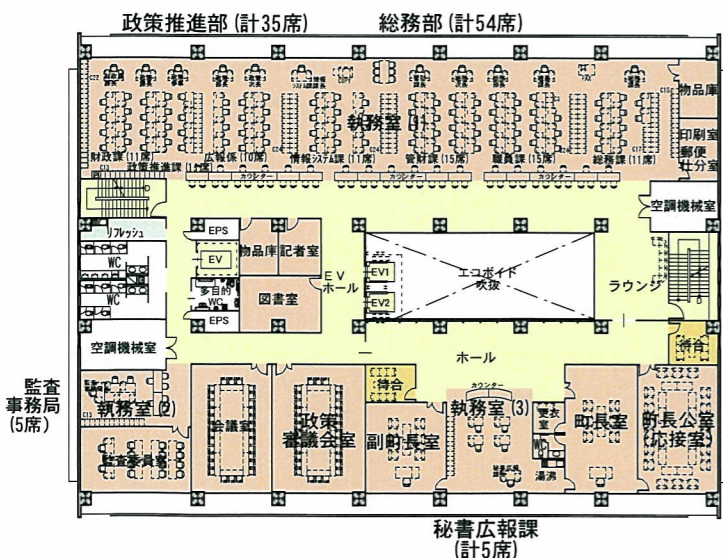
凡例	
	: 執務ゾーン
	: 交流ゾーン
	: 厚生ゾーン
	: サービスゾーン
	: 交通ゾーン

5階 政策推進部・総務部・町長室

6階 議場・議会部門

7階 傍聴席・屋上庭園・屋外設備ヤード

R階 太陽光発電パネル・パラボラアンテナ



■ 防災計画

1. 防災拠点としての庁舎

○免震構造の採用

予想される大地震後も防災拠点として庁舎機能を完全に保持することが可能な、免震構造を採用します。

○自立性の高いインフラ整備

- ・上水と雨水の2系統の水源を確保し、災害時利用の4日分が貯水できるようにします。
- ・トイレや生活排水を一時的に貯留可能な緊急排水槽を設けます。
- ・空調用熱源エネルギーを、都市ガスと電力の組み合わせとし、停電時にも空調機の運転を可能とします。またガスと電気の両方が遮断された場合においても、自家発電設備によって空調機を運転できるようにします。
- ・災害時には井戸水を飲料水として利用できる計画とします。
- ・受電は本線、予備線の2回線引き込みとします。

○災害対策本部

災害対策本部には単独の個別空調を設置します。

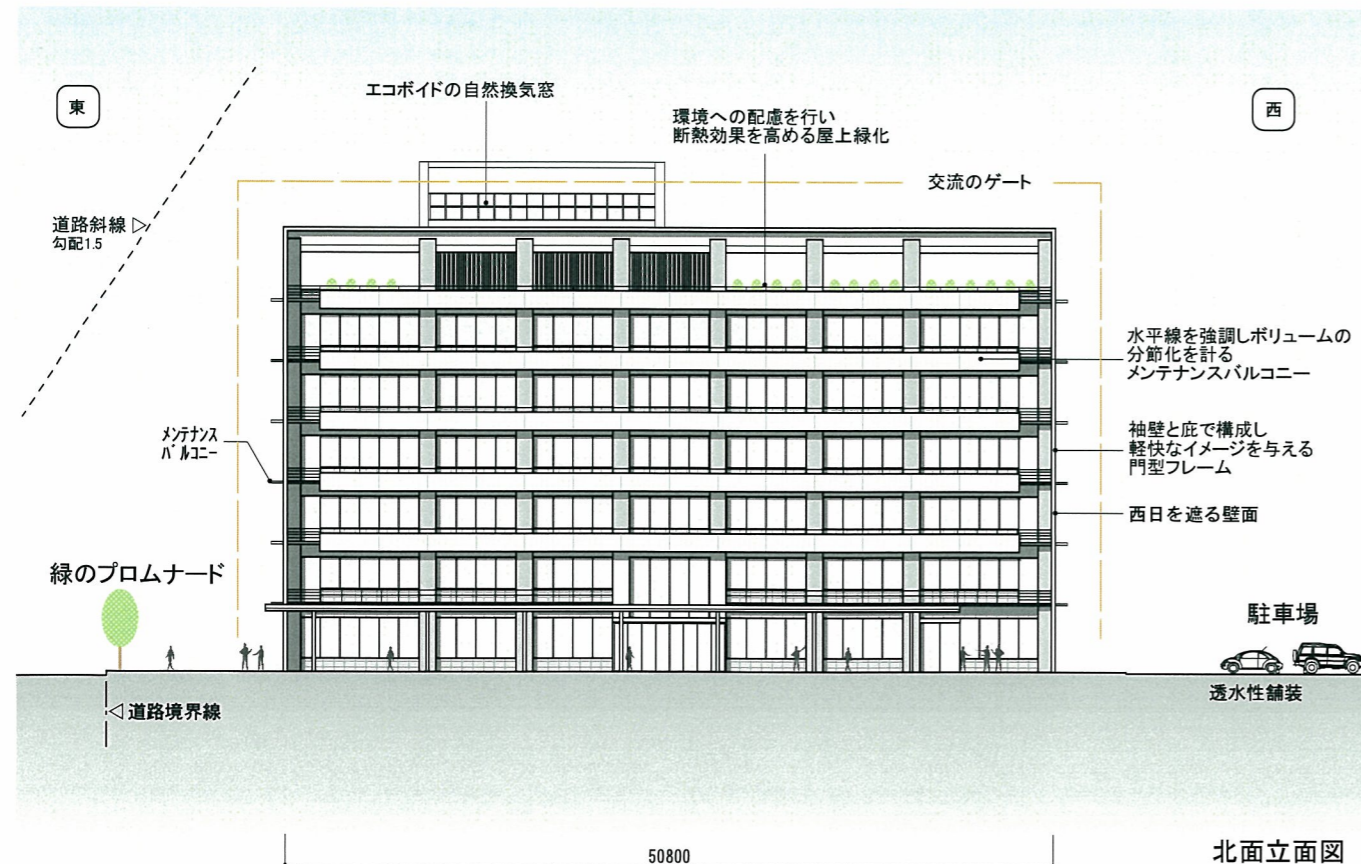
2. 安全性の高いわかりやすい避難計画

両サイドコアの採用により、明確な2方向避難が可能な、安全で分かり易い避難経路を確保します。

■ ユニバーサルデザイン

誰にでもやさしい使いやすい庁舎

- ・健康福祉部を1階、2階の低層部に配置して、特に高齢者や障害者に配慮します。
- ・正面エントランスの近くに、庇付の身障者用駐車場を設置します。
- ・主要な通路には段差を設けない、フラットで安全な経路を確保します。
- ・サイン計画は大きく分かり易いデザインとします。また外国語表示をします。
- ・エレベータはすべて音声案内設備などを備え、バリアフリー化します。
- ・窓口カウンターにはローカウンターを設置し、車椅子使用者に対応します。
- ・各階に多目的トイレ(オストメイト対応)を設置します。
- ・授乳室、キッズコーナーを設置し、親子連れの来庁者にもやさしい計画とします。



■ 環境計画

エコ庁舎の実現

三好町の気候風土に配慮し、建物の形状を活かした省エネ手法を採用

○「環境配慮型の建築形態」

建物を東西軸に配置し、両サイドコア型の執務空間を採用することで、東西面の熱負荷を低減します。また南面はバルコニーを強い日差しを遮蔽する庇として利用し、熱負荷を低減します。

○「エコ・ボイド」

建物中央にエコ・ボイド(吹抜け)を計画し、煙突効果によって中間期の自然換気を促進します。またエコボイドを介してコミュニケーションを誘発し、より快適な執務空間を実現します。

○「自然採光・自然換気」

エコ・ボイドの上部にトップライトを設け、自然光を利用し照明のランニングコストを低減します。中間期には、南北の開口部からこちよい外気を取り入れ、自然換気を行い、空調負荷を削減します。また夏季には自然換気口を利用し、ナイトパージ(夜間冷却)を行います。

○「太陽光発電パネル」

屋上に太陽光発電パネル(20kw)を設置し、自然エネルギーを活用します。また外構照明に太陽光と風力を利用したハイブリッド照明を設置します。

○「Low-E複層ガラス」

外壁面のガラスはLow-E複層ガラスを使用し、熱負荷を軽減します。

○「屋上緑化」

屋上には、屋上緑化を設け、熱負荷を軽減するとともに、ヒートアイランド現象の抑制に貢献します。

○「雨水/井水利用」

雨水、井水をトイレの洗浄水や屋外散水等に利用し、水資源を有効に活用します。

○「エコピット(免震ピット)」

地下ピットの地熱を活用した外気導入によって、空調負荷を削減します。

○「エコ素材の利用」

透水性舗装、自然素材、リサイクル材料などを積極的に採用し、環境負荷を低減します。

